

## パシフィック・ミュージック・フェスティバル

## アバドの指揮が原点

アシスタント・コンダクター  
久保田昌一

世界で注目されている日本人の若手指揮者。今回がPMF初参加となる。「米ニューヨークのマネス音楽院に通っていた2002年、同級生2人がPMFに参加しましたが、当時指揮者は参加できず残念でした。夏休みで戻っていた東京でその同級生が出演したPMFオーケストラを聴きましたが、若い音楽家のエネルギーと指揮のシャルル・デュトワとの音楽性が融合した演奏が素晴らしい。今回、ずっと参加したいと思っていたPMFに呼ばれてとても光栄です」と喜びを表現する。

東京生まれで、クラシック音楽好きの両親の影響で子供のころからピアノを習っていた。指揮者を志したのは中学生の時、テレビでクラウディオ・アバドのドキュメンタリーを見たのがきっかけという。「それまで指揮者は、オーケストラを自分の思うように操るのだと思っていました。ところが、アバドは『オーケストラは演奏者みんなが互いの演奏を聞き合っってひとつの音楽をつくる。』

私は方向性を示すだけ」と言うので「す」と、指揮の奥深さに感銘を受けたという。

16歳で渡米後、ジュリアード音楽院などで指揮を学んだ。2011年、シカゴ交響楽団ゲオルグ・シヨルティ国際指揮者コンクールで優勝し注目を集め、同交響楽団音楽監督の巨匠リッカルド・ムーティのもと、シカゴ響指揮研修員も務めた。現在、東京とニューヨークを行き来しながら国内外のオーケストラを指揮している。

PMFでは7月12日のオープニング・コンサートと20日のバーンスタイン・メモリアルフェスタコンサートに登場。バーンスタインの「キャンディッド」序曲、ガーシュインの「パリのアメリカ人」のほか、モーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」のアリアなども指揮する。「PMFは若手演奏家が一流のプロと一緒に演奏できる世界でも数少ない音楽祭。世界中の音楽家と共演できるのを楽しみにしています」と話している。



「ずっとPMFに参加したかった」と  
思いを語る久保田昌一

ほか。

24日  
中央区北  
ラベル

フリー  
。PM  
ミー生

B>  
ラ。ア  
PM  
番、チ  
S6000  
。一部  
A2000  
3500円

アカデ  
2時～  
田午前  
付け。

30分、  
(ピア  
ピアノ  
の  
日3000  
(要整

リハー  
キタラ。